

# 平成29年度入学生対象

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部(学科)名〔工学部 第四類(建設・環境系)〕

プログラムの名称(和文)	建築プログラム
(英文)	Architecture and Building Engineering
1. 取得できる学位 学士(工学)	
2. 概要	<p>日本の建築家は世界で活躍し、人類の文化創造に貢献しているが、そこには幅広い知識と深い倫理観が求められる。とりわけ広島では平和な生活環境創造のための知恵が集積されてきている。本プログラムは広島の固有性を背景に、幅広い知識と教養を学習し、かつ生活環境創造のための工学知識と技術を教育しようとするものである。今後のサステイナブルな開発、また情報化社会に対応した新しい建築物を自ら探求し、創造してゆくことのできる能力を育成する。</p> <p>本プログラムでは建築設計・計画、建築環境・設備、建築構造、建築材料・生産の基本的な工学知識を基盤として、建築経済、建築行政等の実務に必要な知識、また芸術的な創造能力などを含め、総合的に学習する。3年次進学後は学生の志望に応じて建築学課程、建築工学課程のいずれかを選択し所属することとなる。建築学課程は本プログラムの課程構成において中心をなし、一般に建築の分野として理解されている専門領域について、幅広く総合的に学習し、建築学のいずれの専門に対しても対応できるバランスのよい知識と能力を習得する。建築工学課程では日本が世界有数の地震国であることから、先端的な防災・耐震技術の一端に触れ、安全で地球に優しい生活環境創造のため、建築構造・防災・生産に力点を置きつつ建築を学習する。</p> <p>卒業生の半数以上は、大学院博士課程前期に進学し、より高度な専門技術および研究能力を修得している。卒業後は住宅・文化施設・公共施設・商業業務施設・産業施設等のあらゆる建築物の計画・設計・設備・構造・施工等、また都市計画、インテリア計画等の関連する分野の技術者、また建築家として、大手建築企業、住宅産業、建築設計事務所、自治体等において活躍している。</p> <p>なお、本プログラムは、二級建築士の受験資格と一級建築士の受験資格のうち学歴要件(他に2年以上の実務経験が必要)を取得することに必要な講義・演習科目を含む教育体系としている。</p>
3. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針・プログラムの到達目標)	<p>建築プログラムでは、広島の固有性を背景に、幅広い知識と教養を学習し、かつ生活環境創造のための工学知識と技術を習得し、21世紀のサステイナブルな開発、また情報化社会に対応した新しい建築物を自ら探求し、創造してゆくことのできる能力を育成する。そのため本プログラムでは、幅広く深い教養と平和を希求するグローバルな視野や総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養教育と、下記の到達目標を実現できるように編成された専門教育を履修し、卒業論文を含む、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士(工学)」の学位を授与する。</p>

「知識・理解」

- (A) 建築創造を通して平和な生活環境の実現に貢献できる（平和な生活環境に貢献できる人材の育成）
- (B) 社会の発展，人類の幸福に貢献できる（人類の幸福に貢献できる人材の育成）
- (C) 技術者として豊かな人格と倫理観を有している（技術者としての倫理観の育成）
- (D) 建築学の工学的な基礎知識を有している（工学的基礎知識の修得）

「能力・技能」

- (E) 建築学の総合的，個別的な専門知識・能力を有している（建築専門知識・能力の修得）

「総合的な力」

- (F) デザイン能力が身についている（デザイン能力の育成）
- (G) 日本語および国際的コミュニケーション能力が身についている（コミュニケーション能力の育成）
- (H) 永続的な自己啓発，研鑽が出来る能力が身についている（自己啓発，研鑽能力の育成）
- (I) 的確で合理的な計画の立案と遂行能力が身についている（計画立案と遂行能力の育成）

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

建築プログラムでは，ディプロマ・ポリシーで掲げる到達目標A～Iを学生が実現できるように，次のような方針で教育課程を編成し実施している。学修の成果は，各科目の成績評価と共に教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

- ・4年間で学ぶ授業科目には，「教養教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3種類がある。
- ・工学部(第四類)として入学した1年次には，主として教養教育科目を学ぶ。この教養教育科目には，「教養ゼミ」や「平和科目」等の教養コア科目，外国語科目等の他，基盤科目としての数学・物理学系の科目や「空間の創造」などが含まれる。また専門基礎科目のはじめとして「応用数学Ⅰ」を学ぶ。
- ・2年進学時に「建築プログラム」への配属が決まると，本格的に「専門基礎科目」「専門科目」を学び始める。2・3年次に学ぶ「専門基礎科目」としては，建築材料，鉄筋コンクリート構造などの「建築構造」に関する科目，「建築環境」に関する科目，建築史，建築法規，都市計画，建築計画，建築設計製図などの「建築計画」に関する科目などがある。
- ・また，主に3年次（一部は4年次）に学ぶ「専門科目」には，「建築構造学」「建築計画学」「居住環境計画学」の3つの専門細目分野が設けられており，それぞれさらに専門性の高い内容を学ぶ。
- ・これらの多様な領域と専門性のレベルの各種の科目を系統的に学習することによって，21世紀の建築を担うに必要な総合的な知識や方法論などを修得する。
- ・プログラムには，専門的領域に応じ，「建築学課程」と「建築工学課程」が設けられており，3年次進級時に配属が決定される。前者は，一般に建築の分野として理解されている専門領域について，総合的に学習する。後者は，日本が世界有数の地震国であることから，先端的な防災・耐震技術の一端に触れ，安全で地球に優しい生活環境創造のため，建築構造・防災・生産に力点を置きつつ建築を学習する。
- ・3年次末にそれまでの成績をチェックし，卒業論文着手資格を判定する。この判定を経て4年次に進級する時点で各研究室への配属が行われ，それぞれの専門的な研究テーマを設定して実験・調査等を含む卒業研究に着手する。最終的に取りまとめた卒業論文について，最終審査を受け，卒業・学位取得に至る。
- ・なお，到達目標A（平和な生活環境に貢献できる人材の育成）は1年次に開講される教養教育科目の「平和科目」，3年次に開講される専門科目「平和都市・建築論」等の履修を通して修得する。到達目標B（人類の幸福に貢献できる人材の育成）は2年次に開講される専門基礎科目の「建築計画Ⅰ」，3年次に

開講される専門科目の「建築計画II」，「都市計画」等の履修を通して修得する。到達目標C（技術者としての倫理観の育成）は3年次に開講される専門科目の「建築行政」，「建築施工」，「建築倫理」等の履修を通して修得する。到達目標D（工学的基礎知識の修得）は1年次から2年次にかけて開講される専門基礎科目の「応用数学I，II」，「確率・統計」，「建築コンピュータ工学」等の履修を通して修得する。

- ・到達目標E（建築専門知識・能力の修得）は1年次に開講される教養教育科目の「空間の創造」および2年次から3年次にかけて開講される建築構造，建築環境，建築計画に関する科目の履修を通して修得する。
- ・到達目標F（デザイン能力の育成）は2年次に開講される専門基礎科目の「建築図学」，3年次から4年次にかけて開講される専門科目の「建築生産マネジメント」，「芸術制作」，「建築構造設計」等の履修を通して修得する。到達目標G（コミュニケーション能力の育成）は1年次に開講される教養教育科目の外国語科目および「教養ゼミ」，2年次に開講される専門基礎科目の「技術英語演習」，3年次に開講される専門科目の「建築ゼミナールI，II」等の履修を通して修得する。到達目標H（自己啓発，研鑽能力の育成）は2年次に開講される専門基礎科目の「建築設計製図I，II」，3年次から4年次にかけて開講される専門科目の「建築見学演習」，「建築学外演習」，「卒業論文」等の履修を通して修得する。到達目標I（計画立案と遂行能力の育成）は3年次から4年次にかけて開講される専門科目の「建築設計製図III，IV，V」，「卒業論文」等の履修を通して修得する。

#### 5. 開始時期・受入条件

##### ○ プログラムの開始時期

教養課程の多くの科目を修得した2年生前期より本プログラムを開始する。第四類には，建築学，社会基盤環境工学，輸送機器環境工学の3つのプログラムがあるが，各プログラムには受入上限数がある。各プログラムへの配属は1年次終了後に，本人の希望，成績を考慮して決める。建築プログラムにおいて1年次に学んでおくことが望ましい科目は「空間の創造」である。

##### ○ 既修得要件

建築は人間生活全般にかかわるので，教養課程においては文系科目，理系科目を問わずできるだけ広い範囲について学んでおくことが望ましい。

#### 6. 取得可能な資格

卒業により二級建築士の受験資格が与えられる。また，実務経験を2年以上積むことにより，一級建築士の受験資格が与えられる。高等学校教諭一種免許状（工業）（「職業指導」，「総合演習」および所定の「教養教育科目」を修得すれば，卒業と同時に高等学校教諭一種免許状（工業）を取得できる。）

#### 7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は，別紙1の履修表を参照すること。（履修表を添付する。）

※授業内容は，各年度に公開されるシラバスを参照すること。

#### 8. 学習の成果

各学期末に，学習の成果の評価項目ごとに，評価基準を示し，達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4，A=3，B=2，C=1と数値に変換した上で，加重値を加味し算出した評価基準値に基づき，入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」，「優秀(Very Good)」，「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀 : 90点以上)	4
A (優 : 80～89点)	3
B (良 : 70～79点)	2
C (可 : 60～69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

## 9. 卒業論文(卒業研究)(位置づけ, 配属方法, 時期等)

### ○ 位置付け

卒業論文は, 学習・教育目標の

「知識・理解」(D)建築学の工学的な基礎知識を有している

「能力・技能」(E)建築学の総合的, 個別的な専門知識・能力を有している

「総合的な力」(F)デザイン能力が身についている

「総合的な力」(G)日本語および国際的コミュニケーション能力が身についている

「総合的な力」(H)永続的な自己啓発, 研鑽が出来る能力が身についている

「総合的な力」(I)的確で合理的な計画の立案と遂行能力が身についている

に到達するための主要な科目として位置付けられている。

### ○ 配属時期と配属方法

配属時期: 4学年開始時(ただし, 「卒業研究着手条件」を満たす学生を対象とする。)

卒業論文着手条件

(1)履修すべき教養教育科目50単位を修得していること。

(2)専門教育科目の専門基礎科目より32単位以上(必修科目のすべてを含む)を履修していること。

(3)建築設計製図Ⅲ, Ⅳ(建築工学課程はⅣを除く)を修得していること。

(4)卒業までに修得すべき専門基礎科目と専門科目(卒業論文5単位を除く)の合計単位数のうち未修得単位数が10単位以下であること。

### ○ 配属方法

配属予定の各研究室・指導教員の研究内容および配属方針(各研究室・指導教員の受け入れ可能数など)はガイダンスを行って周知する。建築設計製図の成績により卒業論文着手可能者の10%程度までは論文に替えて卒業設計とすることも可能である。配属は卒業論文着手可能者の希望にしたがって決定する。ただし, 受け入れ可能数があるので, 調整をする場合がある。

## 10. 責任体制

### (1) PDCA責任体制(計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action))

本プログラムでは, 担当教員から成る建築学専攻会議とその下部組織である建築プログラムの自己点検評価委員会を組織し, プログラムの点検・改善に取り組んでいる。このもとに, カリキュラム検討WG, FD企画検討WG, 外部評価検討WGが設置されている。これらの委員会及びWGはそれぞれの担当分野で教育プログラムが円滑に進むように, 学習・教育目標とその到達度評価法や教育システム全般(教育手

段、教育環境など)を点検・評価し(Check),教育改善方法を検討し(Action),学習・教育目標,教育方法,教育環境の改善などの改善計画を作成し(Plan),実行する(Do)というようにPDCAの改善のループを構築している。このプログラムは、プログラム主任を中心に担当教員全員が協力して進めていく体制になっている。

## (2) プログラムの評価

### ○ プログラム評価の観点

本プログラムでは、以下の評価基準に従い、プログラムの評価を行っている。

- ・学習・教育目標到達度の評価結果に基づいて、プログラムを点検できる教育点検システムが存在し、その仕組みが開示されているか。さらに、それに関する活動が実施されているか。
- ・教育点検システムは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、教育点検システム自体の機能も点検できるように構成されているか。
- ・教育点検システムを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できるようになっているか。
- ・教育点検の結果に基づいて、プログラムを継続的に改善するシステムがあり、それに関する活動が実施されているか。

### ○ プログラム評価の実施方法(授業評価との関連も記載)

建築学専攻会議と各委員会が中心となり、プログラムの評価・改善を行っている。ここで最も重要なことは、以下の2点である。

- ・プログラムの評価・改善が日常的にかつ計画的に進められるようになっている。
- ・学習・教育目標、およびその到達度の評価方法・評価基準等の改訂と改善活動を継続的に行っている。自己点検評価委員会では、プログラム評価の一つとして以下の独自のアンケートを実施している。
- ・学習環境に関する学生アンケート
- ・講義の実施状況、講義の改善計画、他の講義に対する意見などに関する教員アンケート
- ・学習・教育目標及び到達度評価の妥当性を確認するためのアンケート(卒業生および企業アンケート)

建築学専攻会議では、委員会に対しプログラムに関する点検とその改善策の提示、FD企画案の作成などを依頼し、各委員会からの報告および提案を審議して改善策を決定する。同会議はプログラム担当教員全員で構成されるので、ここで決まった評価・改善策などは全構成員に周知されたこととなり実行に移される。特に、カリキュラム関連については、自己点検評価委員会のカリキュラム検討WGが自発的に点検を行い、必要な改善策の提案などを行っている。本プログラムの社会から見た妥当性については、外部評価WGによる点検・学外有識者による評価及び求人企業や卒業生に対するアンケート調査などにより点検を行っている。これらの活動は、継続的に行われている。

### ○ 学生へのフィードバックの考え方とその方法

本プログラムでは、チューターが常に学生の単位取得状況を把握し、学期末には学生との面談により、学習・教育目標に到達できるように学習指導を行うと共に、学生からの質問や相談に応じている。また、チューターを通して学生からの要望を聞きそれを本プログラムの改善に反映させている。さらに、学生による授業評価アンケート結果に基づき科目担当教員に授業の改善・工夫などの改善アンケートを実施しており、学生の要望に対応した授業の改善を行っている。

第四類（建設・環境系）

◎必修(履修時期指定)  
○選択必修(いずれかで履修)  
△自由選択(いずれかで履修)

科目区分		要修得 単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修年次(注1)													
						1年次		2年次		3年次		4年次							
						前	後	前	後	前	後	前	後						
教養 コア 科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	◎													
	平和科目	2		2	選択必修	○													
	パッケージ別科目	6	決定された1パッケージから 3科目	2	選択必修	○	○												
	共通 科目	外国語 科目	英語 (注2・3)	コミュニケーション基礎	0	コミュニケーション基礎 I コミュニケーション基礎 II	1 1	必修											
				コミュニケーション I	2	コミュニケーション I A コミュニケーション I B	1 1		◎ ◎										
			コミュニケーション II	2	コミュニケーション II A コミュニケーション II B	1 1	必修		◎										
			コミュニケーション III	2	コミュニケーション III A コミュニケーション III B コミュニケーション III C	1 1 1	選択必修			○	○								
				上記3科目から2科目															
				初修外国語 (ドイツ語, フランス語, ス 페인語, ロシア語, 中 国語, 韓国語, アラビア 語のうちから1言語選 択)	4	ベーシック外国語 I から 2科目 ベーシック外国語 II から 2科目	1 1	選択必修	○										
			情報科目	2	情報活用基礎又は情報活用演習	2	選択必修	○											
			領域科目	2	自然科学領域以外から(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○								
			健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	○	○										
			基盤 科目			微分積分学 I	2	必修	◎										
	微分積分学 II	2					◎												
	線形代数学 I	2				◎													
線形代数学 II	2					◎													
数学演習 I	1	◎																	
数学演習 II	1					◎													
一般力学 I	2	◎																	
一般力学 II	2					◎													
物理学実験法・同実験	2						◎												
2	空間の創造	2				選択必修			○										
	乗り物と輸送の科学	2		○															
	まちのかたちとくらし	2		○															
自由選択科目	6	すべての領域科目及び基 盤科目の中から(注5)		自由選択	△	△	△	△											
卒業要件単位数		50																	

注1:履修年次に記載の◎, ○, △の Semester で単位を修得できなかった場合は, これ以降の Semester で受講できる。なお, 授業科目により実  
際に開講する Semester が異なる場合があるので, 毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2:「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習A・B」の履修により修得した単位は, 卒業に必要な単位に含めるこ  
とはできない。ただし, 海外語学研修については, 事前の申請によりコミュニケーション I, II, IIIとして単位認定が可能である。詳細については,  
学生便覧の教養教育の英語に関する項を参照すること。

注3:外国語技能検定試験による単位認定制度もある。詳細については, 学生便覧の教養教育の英語に関する項を参照すること。

注4:自然科学領域以外の領域から履修すること。

注5:基盤科目の「空間の創造」, 「乗り物と輸送の科学」, 「まちのかたちとくらし」を受講することが望ましい。

## 建築プログラムにおける学習の成果

## 評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準			
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)	
知識・理解	(A)	平和な生活環境に貢献できる地球人の育成 (・平和都市広島を象徴する建物を挙げ、その特徴を説明することができる。 ・広島の歴史や平和を目指した都市計画などの取り組みについて説明することが出来る。 ・平和な生活環境を創造することについて自分の考えを述べる事が出来る。) に関する理解	平和な生活環境に貢献できる地球人の育成 (・平和都市広島を象徴する建物を挙げ、その特徴を説明することができる。 ・広島の歴史や平和を目指した都市計画などの取り組みについて説明することが出来る。 ・平和な生活環境を創造することについて自分の考えを述べる事が出来る。) について理解し、説明することができる。	平和な生活環境に貢献できる地球人の育成 (・平和都市広島を象徴する建物を挙げ、その特徴を説明することができる。 ・広島の歴史や平和を目指した都市計画などの取り組みについて説明することが出来る。 ・平和な生活環境を創造することについて自分の考えを述べる事が出来る。) について理解している。	平和な生活環境に貢献できる地球人の育成 (・平和都市広島を象徴する建物を挙げ、その特徴を説明することができる。 ・広島の歴史や平和を目指した都市計画などの取り組みについて説明することが出来る。 ・平和な生活環境を創造することについて自分の考えを述べる事が出来る。) について概要を理解している。
	(B)	人類の幸福に貢献できる人材育成 (・日本の社会や国際的に問題となっている事例を挙げ、その内容について説明することが出来る。また、それに対して自分の意見を述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけている。) に関する理解	人類の幸福に貢献できる人材育成 (・日本の社会や国際的に問題となっている事例を挙げ、その内容について説明することが出来る。また、それに対して自分の意見を述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけている。) について理解し、説明することができる。	人類の幸福に貢献できる人材育成 (・日本の社会や国際的に問題となっている事例を挙げ、その内容について説明することが出来る。また、それに対して自分の意見を述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけている。) について理解している。	人類の幸福に貢献できる人材育成 (・日本の社会や国際的に問題となっている事例を挙げ、その内容について説明することが出来る。また、それに対して自分の意見を述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につけている。) について概要を理解している。
	(C)	技術者としての倫理観の育成 (・技術者の行為や企業の製品が社会的に大きな影響を与えた事例を挙げ、説明することが出来る。それに対して自分の考えを述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につける。) に関する理解	技術者としての倫理観の育成 (・技術者の行為や企業の製品が社会的に大きな影響を与えた事例を挙げ、説明することが出来る。それに対して自分の考えを述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につける。) について理解し、説明することができる。	技術者としての倫理観の育成 (・技術者の行為や企業の製品が社会的に大きな影響を与えた事例を挙げ、説明することが出来る。それに対して自分の考えを述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につける。) について理解している。	技術者としての倫理観の育成 (・技術者の行為や企業の製品が社会的に大きな影響を与えた事例を挙げ、説明することが出来る。それに対して自分の考えを述べる事が出来る。 ・社会人として、自分の進むべき方向をグローバルな立場で適確に判断するためのバックグラウンドとなる人文・社会科学的教養を身につける。) について概要を理解している。
	(D)	工学的基礎知識の習得 (・数学、物理学、情報技術の基礎的内容を説明することができる。 ・数学、物理学、情報技術の基礎的内容を建築に応用することができる。) に関する理解	工学的基礎知識の習得 (・数学、物理学、情報技術の基礎的内容を説明することができる。 ・数学、物理学、情報技術の基礎的内容を建築に応用することができる。) について理解し、説明することができる。	工学的基礎知識の習得 (・数学、物理学、情報技術の基礎的内容を説明することができる。 ・数学、物理学、情報技術の基礎的内容を建築に応用することができる。) について理解している。	工学的基礎知識の習得 (・数学、物理学、情報技術の基礎的内容を説明することができる。 ・数学、物理学、情報技術の基礎的内容を建築に応用することができる。) について概要を理解している。
能力・技能	(E-1)	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 イ) 建築設計・計画学関連の基礎的な知識・能力) に関する理解	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 イ) 建築設計・計画学関連の基礎的な知識・能力) について理解し、説明することができる。	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 イ) 建築設計・計画学関連の基礎的な知識・能力) について理解している。	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 イ) 建築設計・計画学関連の基礎的な知識・能力) について概要を理解している。
	(E-2)	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 ロ) 建築環境学関連の基礎的な知識・能力) に関する理解	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 ロ) 建築環境学関連の基礎的な知識・能力) について理解し、説明することができる。	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 ロ) 建築環境学関連の基礎的な知識・能力) について理解している。	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 ロ) 建築環境学関連の基礎的な知識・能力) について概要を理解している。
	(E-3)	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 ハ) 建築構造学関連の基礎的な知識・能力) に関する理解	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 ハ) 建築構造学関連の基礎的な知識・能力) について理解し、説明することができる。	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 ハ) 建築構造学関連の基礎的な知識・能力) について理解している。	建築専門知識・能力の育成 ( (1)総合的で基礎的な知識・能力 ハ) 建築構造学関連の基礎的な知識・能力) について概要を理解している。

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
	(E-4) 建築専門知識・能力の育成 ( (2)建築に関する総合的でより発展的な知識能力・広い範囲にわたるより発展的な知識・能力を計画的に修得し、建築技術者としての基礎を形成する。 ・イ)ロ)ハ)のいずれかに関わるより発展的な内容の報告書を取りまとめることができる。)に関する理解	建築専門知識・能力の育成 ( (2)建築に関する総合的でより発展的な知識能力・広い範囲にわたるより発展的な知識・能力を計画的に修得し、建築技術者としての基礎を形成する。 ・イ)ロ)ハ)のいずれかに関わるより発展的な内容の報告書を取りまとめることができる。)について理解し、説明することができる。	建築専門知識・能力の育成 ( (2)建築に関する総合的でより発展的な知識能力・広い範囲にわたるより発展的な知識・能力を計画的に修得し、建築技術者としての基礎を形成する。 ・イ)ロ)ハ)のいずれかに関わるより発展的な内容の報告書を取りまとめることができる。)について理解している。	建築専門知識・能力の育成 ( (2)建築に関する総合的でより発展的な知識能力・広い範囲にわたるより発展的な知識・能力を計画的に修得し、建築技術者としての基礎を形成する。 ・イ)ロ)ハ)のいずれかに関わるより発展的な内容の報告書を取りまとめることができる。)について概要を理解している。
	(F) デザイン能力の育成 (・与えられた課題に対し、多くの側面から予想される問題点を指摘し、その解決に向けた方法を提案することができる。 ・卒業論文において、研究の社会的位置付けを理解し、的確な研究構想を立てることができる。)に関する理解	デザイン能力の育成 (・与えられた課題に対し、多くの側面から予想される問題点を指摘し、その解決に向けた方法を提案することができる。 ・卒業論文において、研究の社会的位置付けを理解し、的確な研究構想を立てることができる。)について理解し、説明することができる。	デザイン能力の育成 (・与えられた課題に対し、多くの側面から予想される問題点を指摘し、その解決に向けた方法を提案することができる。 ・卒業論文において、研究の社会的位置付けを理解し、的確な研究構想を立てることができる。)について理解している。	デザイン能力の育成 (・与えられた課題に対し、多くの側面から予想される問題点を指摘し、その解決に向けた方法を提案することができる。 ・卒業論文において、研究の社会的位置付けを理解し、的確な研究構想を立てることができる。)について概要を理解している。
総合的な力	(G) コミュニケーション能力の育成 (1) 国際的コミュニケーション能力 ・外国人に対して自己紹介し、意思を伝えることができる。 ・工学や建築に関する専門的な文書を、辞書を用いながら読んだり書いたりすることができる。)に関する理解 (2) 日本語コミュニケーション能力 ・聴衆の前で、自分の考えを発表し、質疑応答することができる。 ・説得力のある発表用資料を作成することができる。 ・工学や建築(例えば卒業論文)に関する文章を読んで十分に理解し、また研究成果を伝えることのできる文章を書くこと(ができる)。	コミュニケーション能力の育成 (1) 国際的コミュニケーション能力 ・外国人に対して自己紹介し、意思を伝えることができる。 ・工学や建築に関する専門的な文書を、辞書を用いながら読んだり書いたりすることができる。)について理解し、説明することができる。 (2) 日本語コミュニケーション能力 ・聴衆の前で、自分の考えを発表し、質疑応答することができる。 ・説得力のある発表用資料を作成することができる。 ・工学や建築(例えば卒業論文)に関する文章を読んで十分に理解し、また研究成果を伝えることのできる文章を書くこと(ができる)。	コミュニケーション能力の育成 (1) 国際的コミュニケーション能力 ・外国人に対して自己紹介し、意思を伝えることができる。 ・工学や建築に関する専門的な文書を、辞書を用いながら読んだり書いたりすることができる。)について理解している。 (2) 日本語コミュニケーション能力 ・聴衆の前で、自分の考えを発表し、質疑応答することができる。 ・説得力のある発表用資料を作成することができる。 ・工学や建築(例えば卒業論文)に関する文章を読んで十分に理解し、また研究成果を伝えることのできる文章を書くこと(ができる)。	コミュニケーション能力の育成 (1) 国際的コミュニケーション能力 ・外国人に対して自己紹介し、意思を伝えることができる。 ・工学や建築に関する専門的な文書を、辞書を用いながら読んだり書いたりすることができる。)について概要を理解している。 (2) 日本語コミュニケーション能力 ・聴衆の前で、自分の考えを発表し、質疑応答することができる。 ・説得力のある発表用資料を作成することができる。 ・工学や建築(例えば卒業論文)に関する文章を読んで十分に理解し、また研究成果を伝えることのできる文章を書くこと(ができる)。
	(H) 自己啓発、研鑽能力の育成 (・新しく発生した問題について、それに関連した情報や文献を検索収集できる。)に関する理解	自己啓発、研鑽能力の育成 (・新しく発生した問題について、それに関連した情報や文献を検索収集できる。)について理解し、説明することができる。	自己啓発、研鑽能力の育成 (・新しく発生した問題について、それに関連した情報や文献を検索収集できる。)について理解している。	自己啓発、研鑽能力の育成 (・新しく発生した問題について、それに関連した情報や文献を検索収集できる。)について概要を理解している。
	(I) 計画立案と遂行能力の育成 (・各種課題を計画的に遂行し、期限内にその成果を取りまとめることができる。 ・実験、演習、卒業論文を通して、協同作業を体験する。)に関する理解	計画立案と遂行能力の育成 (・各種課題を計画的に遂行し、期限内にその成果を取りまとめることができる。 ・実験、演習、卒業論文を通して、協同作業を体験する。)について理解し、説明することができる。	計画立案と遂行能力の育成 (・各種課題を計画的に遂行し、期限内にその成果を取りまとめることができる。 ・実験、演習、卒業論文を通して、協同作業を体験する。)について理解している。	計画立案と遂行能力の育成 (・各種課題を計画的に遂行し、期限内にその成果を取りまとめることができる。 ・実験、演習、卒業論文を通して、協同作業を体験する。)について概要を理解している。

## 主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、建築に関する専門教育を受けるための学問的基盤づくりの役割を担い、自主的・自立的態度の尊重、情報収集力・分析力・批判力を基礎にした科学的思考力の養成、物事の本質と背景を広い視野から洞察することのできる視座の確立、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に関する関心を強化し、幅広い知識を真に問題解決に役立つ知識体系へと統合するとともに、規制の枠を超えた学際的・総合的研究を開拓し推進する能力を養成する。





## 別紙4 カリキュラムマップ

学習の 成果	評価項目	授 業 科 目 名							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・ 理解 (A)	平和な生活環境に貢献できる地球人の育成	パッケージ(◎) 平和科目(◎)	パッケージ(◎)	建築設計製図Ⅰ(◎)		建築設計製図Ⅲ(◎)	現代建築史Ⅱ 建築設計製図Ⅳ 平和・都市建築論		
知識・ 理解 (B)	人類の幸福に貢献できる人材育成	パッケージ(◎) 健康スポーツ(◎)	パッケージ(◎)	建築設計製図Ⅱ(◎) 日本建築史 都市計画 建築計画Ⅰ	建築設計製図Ⅲ(◎) 現代建築史Ⅰ 建築計画Ⅱ 環境論	建築設計製図Ⅳ 現代建築史Ⅱ 平和・都市建築論			
知識・ 理解 (C)	工学的基礎知識の習得	パッケージ(◎)	パッケージ(◎)		建築行政 建築施工	建築倫理(◎) 建築見学演習			
知識・ 理解 (D)	建築専門知識・能力の育成	自然科学・情報(◎)	自然科学(◎) 応用数学Ⅰ(◎)	自然科学(◎) 応用数学Ⅱ 応用数学Ⅲ 確率・統計	応用数学総合 建築コンピュータ工学	応用数理A	卒業論文(◎)	卒業論文(◎)	
能力・ 技能 (E)	建築専門知識・能力の育成		空間の創造	専門基礎科目	専門基礎科目 専門科目	専門基礎科目 専門科目	専門科目	卒業論文(◎) 専門科目	卒業論文(◎)

総合的な力(F)	デザイン能力の育成	教養ゼミ(◎)		建築計画Ⅰ 建築図学	建築計画Ⅱ 都市計画	建築設計製図Ⅲ(◎)	建築設計製図Ⅳ(○) 建築生産マネジメント	卒業論文(◎) 建築設計製図Ⅴ 建築構造設計(○) 芸術制作 建築ゼミナールⅢ	卒業論文(◎)
総合的な力(G)	コミュニケーション能力の育成	外国語科目 教養ゼミ(◎)		技術英語演習(◎)	建築設計製図Ⅲ(◎) 建築ゼミナールⅠ	建築設計製図Ⅳ(○) 建築学外実習 建築ゼミナールⅡ	卒業論文(◎) 建築設計製図Ⅴ 建築構造設計(○) 芸術制作 建築ゼミナールⅢ	卒業論文(◎)	卒業論文(◎)
総合的な力(H)	自己啓発，研鑽能力の育成	◎教養ゼミ		建築設計製図Ⅰ(◎) 建築計画Ⅰ	建築設計製図Ⅱ(◎) 建築計画Ⅱ 鋼構造設計基礎	建築設計製図Ⅲ(◎) 建築ゼミナールⅠ 建築環境学演習	建築設計製図Ⅳ(○) 建築ゼミナールⅡ 建築見学演習 建築学外実習	卒業論文(◎) 建築設計製図Ⅴ 建築構造設計(○) 建築ゼミナールⅢ	卒業論文(◎)
総合的な力(I)	(I) 計画立案と遂行能力の育成			建築設計製図Ⅰ(◎)	建築設計製図Ⅱ(◎) 鋼構造設計基礎	建築設計製図Ⅲ(◎) 建築環境学演習	建築設計製図Ⅳ(○) 建築見学演習 建築学外実習 建築生産マネジメント	卒業論文(◎) 建築設計製図Ⅴ 建築構造設計(○) 建築ゼミナールⅢ	卒業論文(◎)

◎：各課程に共通した必修科目、○：各課程ごとに必修の指定が異なりいずれかを必ず履修すべきである科目

## 別紙 5

## 担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
大久保孝昭	教授	7801	A-2 棟 825 室	ohkubotk@hiroshima-u.ac.jp
田川 浩	教授	7799	A-2 棟 824 室	htagawa@hiroshima-u.ac.jp
中村 尚弘	教授	7794	A-2 棟 822 室	naohiro3@hiroshima-u.ac.jp
西名 大作	教授	7838	A-2 棟 624 室	nishina@hiroshima-u.ac.jp
山本 春行	教授	6928	国際協力研究科棟 411 室	a040564@hiroshima-u.ac.jp
岡河 貢	准教授	7846	A-2 棟 643 室	okagawa@hiroshima-u.ac.jp
久保田 徹	准教授	6925	国際協力研究科棟 412 室	tetsu@hiroshima-u.ac.jp
角倉 英明	准教授	7833	A-2 棟 721 室	sumikura@hiroshima-u.ac.jp
千代章一郎	准教授	7834	A-2 棟 722 室	sendai@hiroshima-u.ac.jp
田中 貴宏	准教授	7866	A-2 棟 625 室	ttanaka@hiroshima-u.ac.jp
日比野 陽	准教授	7796	A-2 棟 821 室	hibino@hiroshima-u.ac.jp
三浦 弘之	准教授	7798	A-2 棟 823 室	hmiura@hiroshima-u.ac.jp
森 拓郎	准教授	7802	A-2 棟 826 室	未定
石垣 文	助教	7842	A-2 棟 633 室	isgkay@hiroshima-u.ac.jp
金田一 清香	助教	7832	A-2 棟 614 室	kindaichi@hiroshima-u.ac.jp
寺本 篤史	助教	7862	A-2 棟 816 室	a-teramoto@hiroshima-u.ac.jp

水田 丞	助教	7835	A-2 棟 712 室	smizuta@hiroshima-u.ac.jp
宮津 裕次	助教	7800	A-2 棟 815 室	miyazu@hiroshima-u.ac.jp

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））